

「リー・フラウメニ症候群診療ガイドライン」への
パブリックコメント募集につきまして

令和2年2月25日

日本小児血液・がん学会会員の皆様、

拝啓

平素は大変お世話になり有難うございます。

この度、平成29～令和元年度厚労科研補助金（がん対策推進総合研究事業）「小児期に発症する遺伝性腫瘍に対するゲノム医療体制実装のための研究」班では、「リー・フラウメニ症候群診療ガイドライン」を作成致しましたので、日本小児血液・がん学会会員の先生方にパブリックコメントをお願いしたく存じます。

リー・フラウメニ症候群 (Li-Fraumeni syndrome, LFS) は、乳幼児期から成人に至るまで、生涯に渡り高率にがんを発症する遺伝性腫瘍（症）です。これまで LFS は、がんの既往歴や家族歴などから疑われ、*TP53* 遺伝学的検査を経て診断されてきましたが、昨今ではがん遺伝子パネル検査の二次的所見として診断されるケースも増えてきており、臨床現場は混乱しています。

本研究班は LFS 診療体制構築を目標に掲げ、その第一歩として LFS 診療の一助となるよう本ガイドラインを作成致しました。*TP53* 遺伝学的検査やがんサーベイランスが保険適用外である現時点において、これらを推奨することには多くにご意見があることと推測します。ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、ご意見頂きますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

研究代表者

熊本忠史

国立がん研究センター

中央病院小児腫瘍科

東京都中央区築地 5-1-1

電話：03-3542-2511

tkumamot@ncc.go.jp